

# 事業計画書

NPO 法人 Team Relation  
代表 田村 広美  
2025 年 10 月 27 日

## 1. 団体の理念

Team Relation は、「人ととの関係が整えば、現場が整う」という理念のもと、保育・教育現場における人間関係の改善と、子どもたちの心の安心を育む環境づくりを目指しています。すべての人が自分の強みを理解し、互いに活かし合う社会の実現を目的とします。

## 2. 事業概要

本事業は、保育・教育現場における人間関係の改善と、職員一人ひとりの「強みを活かす働き方」の実現を目的としています。初年度は導入園（モニター園）において、職員全員がクリフトンストレンジングのアセスメントを受け、結果をもとにチームコーチング、リーダー研修、振り返りミーティングを実施します。その成果をもとに、地域内の他園や子育て支援センターに展開し、地域全体で「強みを生かし合う関係づくり」を広げていきます。

## 3. 実施プロセス

フェーズ	実施内容	期間	担当
フェーズ 1	クリフトンストレンジング受検・結果共有 ミーティング	初回 1 か月	コーチ
フェーズ 2	リーダーシップ研修・チームコーチング ・振り返りミーティング	2~3 か月	コーチ + カウンセラー
フェーズ 3	成果共有会・地域ワークショップ開催	年 2 回	カウンセラー

## 4. 事業の特徴と独自性

従来の研修が「問題解決型」であるのに対し、本事業は「強みを起点とした関係性構築型」であり、個人理解と組織変革を同時に進める新しいアプローチです。

代表者自身が園長経験を持ち、現場の課題（離職・人間関係・メンタル負担）を熟知しているため、実践的な支援が可能です。

保育・教育・地域支援・コーチングの融合により、他地域にはない独自モデルを形成します。

各園の文化や関係性に合わせた伴走型支援により、成果の定着率を高めます。

## 5. 期待される効果

職員一人ひとりが自分と他者の強みを理解し、チーム内の信頼関係が向上します。

園全体の協働意識が高まり、離職率の低下と子どもへの関わりの質向上につながります。

地域全体で「互いに活かし合う文化」が根づき、保育・教育・福祉の連携が促進されます。

蓄積したデータは年度ごとに比較分析を行い、離職率・満足度の推移を可視化することで、継続的な改善サイクルを確立します。

## 6. 財務計画概要

初年度は助成金を活用し、導入園でのモデル事業を実施します。資金はアセスメント費、講師謝金、研修教材費、会場費などに充當します。助成金の内容に応じて、事業規模および実施園数を段

階的に拡大していく計画です。事業の収支管理は JDL IBEX 出納帳により部門別（助成金別）に行い、顧問税理士の確認を受けながら透明性の高い運営を行います。

## 7. 将来的展望

千葉県内でモデル園を確立し、「地域コーチ育成講座」により持続的な支援体制を構築します。さらに子ども向けプログラム「キッズストレンジス」を通じて、家庭・園・地域・学校が協働で子どもの強みを育てる「地域共育ネットワーク」を形成します。

## 8. まとめ

職員一人ひとりの輝きが園全体を照らし、その光が子ども・保護者・地域へと広がる。Team Relation は、強みを活かし合う関係づくりを通じて、保育現場から地域社会を笑顔でつなげていきます。

## 9. 引用情報活用方針および記載テンプレート

### (1) 基本方針

Team Relation では、事業計画書・パンフレット・提案資料などにおいて、他団体・企業・大学・行政の公開情報を活用する際、正確かつ誠実な表現を用いることを基本とします。これにより、信頼性の高い発信を行い、他団体との関係においても誤解や不信を生まない透明な情報発信を目指します。

### (2) 引用情報の取り扱い基準

#### ✓ 使用できる情報

- 公開情報（各団体の公式サイト、プレスリリース、報道発表など）
- 団体名や事業名を「導入事例」「参考事例」として客観的に紹介する情報
- 出典 URL を明示できる情報

#### △ 使用を避ける情報

- 未公表または内部向け情報
- 協働・連携の事実がないにもかかわらず、誤解を与える表現
- ロゴ・写真・資料等の無断使用

### (3) 推奨表現テンプレート

#### 1) パンフレット・提案書向け

クリフトンストレンジスは、NEC・野村総合研究所（NRI）などの企業研修、茨城県竜ヶ崎市役所（教育委員会）、早稲田大学エグゼクティブ教育プログラムなど、教育・行政・企業領域で広く活用されています。

※出典：各団体の公式ウェブサイト・公開資料より

## 2) 事業計画書・助成金申請書向け

企業・行政・大学など全国的に導入が進む信頼性の高いプログラムであり、Team Relation では保育・教育・福祉の現場に合わせた独自モデルとして展開します。

### (4)参考導入実績（公開情報に基づく）

区分	団体名	導入・活用内容	出典
企業	NEC	社員育成研修・チームビルディング	公式サイト・公開事例
企業	野村総合研究所（NRI）	人材開発・ストレングス研修	公開ブログ記事
行政	茨城県竜ヶ崎市役所 教育委員会	教職員向け導入・研修計画	教育委員会資料
教育機関	早稲田大学 エグゼクティブ教育プログラム	教育プログラム内で活用	ゼミ公式サイト
福祉機関	社会福祉法人 社会的養育総合支援センター 光明童園	支援職員研修で導入	法人ウェブサイト

### (5)引用時の記載例

※本資料に記載の他団体名・導入事例は、公開情報をもとにした参考事例です。Team Relation とは直接的な連携関係を示すものではありません。

### (6)今後の対応

- 新たな導入・協働が決定した場合は、正式な合意書（MOU 等）を作成し、資料表現を「連携事例」として更新する。
- 公式文書・パンフレット・ウェブサイトでの記載時は、本方針を遵守する。